



K.Miura

THE SPORTS NIPPON SHO STAYERS STAKES

第59回 スポーツニッポン賞 ステイヤーズステークス (GII)

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	62,000,000円	25,000,000円	16,000,000円	9,300,000円	6,200,000円
付加賞	1,008,000円	288,000円	144,000円		



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳55kg、4歳以上57kg、牝馬2kg増、2024.11.30以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増、2024.11.29以前のG I競走(牝馬限
定競走を除く)1着馬1kg増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.12.6 中山 晴・良 芝3600m (国際) (特指)

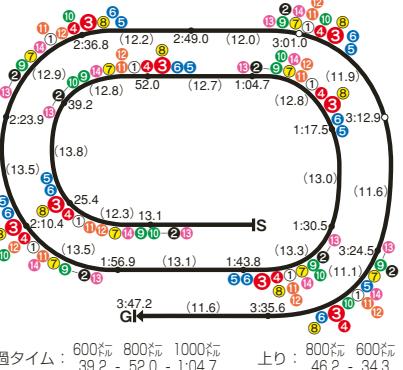
順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
						(着差)	通過順位	(600m)	(増減)				
1	③	ホエリート	牝4	55	戸崎圭太	3:47.2	3-4-3-3	34.0	476(-6)	4.40	田島俊明(美浦)	104	
2	④	マイネルカンパーナ	牡5	57	津村明秀	%	5-5-5-3	34.0	414(+2)	11.60	青木孝文(美浦)	107	
3	⑦	クロミナンス	牡8	57	カルメル	11-11-10-11	33.5	494(+0)	3.51	尾関知人(美浦)	107		
4	⑧	フレイヴィロッカーラ	駆5	57	荻野 極	クビ	3-3-3-1	34.2	456(+2)	18.30	本田 優(栗東)	107	
5	⑫	ワープスピード	牡6	57	菅原明良	%	5-7-7-6	33.9	504(+6)	18.00	高木 登(美浦)		
6	①	ヴェルデンヘルク	牡5	57	松若風馬	クビ	8-8-7-6	34.0	482(-4)	11.90	宮本 博(栗東)		
7	⑯	チャックネイト	駆7	57	佐々木大輔	クビ	9-10-10-9	33.8	500(+16)	7.64	堀 宣行(美浦)		
8	⑪	ヴェルミセル	牝5	55	鮫島亮駿	ハナ	9-8-7-6	34.1	466(-2)	7.13	吉村圭司(栗東)		
9	⑨	シリプロン	牡7	57	T.マカド	%	12-12-12-12	33.7	504(+8)	18.60	稻垣幸雄(美浦)		
10	②	メイショウウブレグ	牡6	57	石橋 脩	2%	13-13-12-12	34.0	470(±0)	68.00	本田 優(栗東)		
11	⑩	ラスカソフレス	牡4	57	A.フーシャン	クビ	5-5-5-5	34.8	494(+6)	11.60	林 徹(美浦)		
12	⑤	ミクソロジー	駆6	57	石川裕紀人	1	2-2-2-2	35.4	430(-4)	78.10	辻野泰之(栗東)		
13	⑬	ワイスゴールド	牝5	55	菅原隆一	3	14-14-14-14	34.5	428(-2)	342.30	蛯名利弘(美浦)		
14	⑤	ビュアキアン	牡4	57	吉田 豊	大差	1-1-1-9	38.0	520(+2)	40.90	竹内正洋(美浦)		

単勝③440円(2%)*、複勝③160円(2%)*、④290円(7%)*、⑦160円(1%)*、枠連③-③2,610円(13%)*

馬連③-④2,200円(6%)*、ワイド③-④730円(6%)*、③-⑦360円(1%)*、④-⑦980円(11%)*

馬単③-④4,150円(12%)*、3連複③-④-⑦3,030円(3%)*、3連単③-④-⑦17,550円(27%)*

5重勝②③⑥⑩③157,470円(1,893票) 対象競走：阪神10R／中山10R／中京11R／阪神11R／中山11R



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
39.2 - 52.0 - 1:04.7 46.2 - 34.3

アラカルト

・戸崎圭太騎手はステイヤーズS初勝利。JRA重賞は25年9勝目、通算86勝目

・田島俊明調教師はステイヤーズS初勝利。JRA重賞は25年2勝目、通算6勝目

・ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算39勝目

・4歳馬の勝利は20年オセアグレイに続く通算20回目

・牝馬の勝利は86年シーナレディ以来39年ぶり、通算2回目

ホーエリート *Hohelied*

牝 鹿毛 2021.4.24生

北海道白老町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産
馬主・吉田晴哉氏 美浦・田島俊明厩舎
馬名意味・賛歌、雅歌(独)。母名より連想

アイリッシュカーリIRE系 F17-b		
ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	トニービンIRE ダイナカール
ゴールデンハーブ 栗毛 2012	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA ゴールデンサンサッシュ
	ケルティックハーブ 栗毛 2004	クロフネUSA アイリッシュカーリIRE

5代までのインブリード: ノーザンテーストCAN S 4×M5

INTERVIEW

明石圭介 堤
(追分ファームリーバー・育成)

高い評価を受けていました

育成時に騎乗していたライダーからは、「距離が延びて持ち味が生きそう」という声が聞かれていました。馬つくりも良かったうえに、山元トレーニングセンターのスタッフからも、「いつかは重賞を勝てる馬」と言われるほど高い評価を受けていた馬です。今回は一線級の牡馬が相手でしたが、レース前の不安を感じさせないほどの強いレースを見せてくれたと思います。



父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首20戦8勝(ケイーンエリザベスⅡ世C・香G1, アメリカジョッキクラブC GII, 日経新春杯GII, 金鯱賞GII, 鳴尾記念GIII, 宝塚記念G1 2着, ジャパンC G1 3着)、13年から供用
〔代表産駒〕ソウルラッシュ(ドバイターフG1, マイルチャンピオンシップG1)、キセキ(菊花賞G1)、ヘンリートール(天皇賞(春)G1)、メールドグラン(コフィールドC・豪G1)、ドルチェモア(朝日杯フューチュリティS G1)、マスクトディーア(阪神牝馬S GII)、ダンビュライト(京都記念GII)、リオンリオン(青葉賞GII)、ホーエリート(本馬)、ワンダフルタウン(青葉賞GII)、ムイトオブリガード(アルゼンチン共和国杯GII)、エヒト(小倉記念GIII)、グロンディオーズ(ダイヤモンドS GIII)、他に重賞勝ち馬多数

母ゴールデンハーブ

北海道白老町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産 中央20戦2勝
ラステインボーアイ(19 牡父ノヴェリストIRE)中央10戦0勝、地方14戦2勝
(20 牡父キンシャサノキセキAUS)

ホーエリート 本馬(21 牡父ルーラーシップ)中央15戦3勝(ステイヤーズS GII, 迎春S、目黒記念GII 2着、中山牝馬S GIII 2着、フラワーC GIII 2着)獲得総賞金149,322,000円

アルファリラエ(23 牡父ダノンスマッシュ)中央1戦0勝 (25 牡父リオンディーズ)
※22(不受胎)、24(流产)

祖母ケルティックハーブ

北海道白老町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産 中央3勝、19年用途変更
アイリッシュハーブ(11 牡父スペシャルウィーク)中央1勝、地方1勝
ゴールデンハーブ(12 前出)

曾祖母アイリッシュカーリIRE

中央3勝(有松特別)、96年輸入。13年死亡

ソルジャー・ソング(02 牡父サンデーサイレンスUSA)中央4勝(奥多摩S、房総特別、シルクロードS GIII 2着、高松宮記念G1 3着)
ケルティックハーブ(04 前出)
アスドゥクール(05 牡父ジャングルポケット)中央4勝、ソルヴェイグ(フィリーズレビューGII, 兵庫スプリントS GIII, キーンランドC GIII 2着、スプリンターズS G1 3着)、ドロウアカード(フラワーC GIII 3着)の母
エールブリーズ(10 牡父フジキセキ)中央5勝(奥多摩S 2回、六社特別、京王杯スプリングC GII 3着、ファルコンS GIII 3着)

舞台は中山の内回りコースを2周する芝3600m。1967年の創設以来、「平地最長距離JRA重賞」として親しまれてきたステイヤーズSを制した牝馬はこれまで1頭。86年シーナンレディーしかいなかつた。しかし重賞2着3回の実績を持つホーエリート、京都大賞典の3着馬ヴェルミセルと、2頭の牝馬が2、3番人気の支持を集めた2025年は、対抗候補と目されていたホーエリートが牡馬勢を従えて快勝。39年ぶりの勝利を飾った。先導役を務めたのは、ダート路線から矛先を転じてきた芝初参戦のピュアキアン。ゆったりとした流れでレースが進むなか、内枠から好スタートを切

ト。鞍上のリードに応え、しつかり伸びたホーエリートが坂上でブレイブロッカーカーを捉え、マイネルカンパーナ以下の反撃も抑えて勝利を手にした。ルーラーシップの産駒で母の父はスティゴールド。春の天皇賞を制したペントールと同じ配合で誕生した本馬を進めた経歴を持つ。4歳初戦で3勝クラスを卒業した後は、中山牝馬Sは3歳時、フラワーCで2着に食い込み、オークス、秋華賞(ともに10着)へ駒を進めた。2着と惜敗を重ねたものの、一方で確かな地力もアピール。3000m級の長丁場に初めて挑んだこの日は血統にも裏打ちされた適性を示し、念願のタイトルをついに掴み取った。

レース史上2頭目、39年ぶりに牝馬が制す

ったホーエリートの戸崎圭太騎手は3番手のインに腰を落ち着ける。ヴエルミセルもスマーズに折り合つて中国を追走。日経賞2着、アルゼンチン共和国杯2着と、長距離重賞で好走を重ねた実績を評価され、1番人気の支持を集めた8歳の古豪クロミナンスは、その背後で末脚を温存した。

後続を引き付けて逃げたピュアキアンは2周目の向正面から徐々にペースアップ。しかし3コーナーでは2番手のミクソロジーが逃げ馬をかわし、さらに4コーナーではブレイブロッカーカーが先頭に立つて押し切りを狙う。馬群の内で脚を溜め、前の争いを見定めていた戸崎騎手は4コーナーからスペー

ト。鞍上のリードに応え、しつかり伸びたホーエリートが坂上でブレイブロッカーカーを捉え、マイネルカンパーナ以下の反撃も抑えて勝利を手にした。ルーラーシップの産駒で母の父はスティゴールド。春の天皇賞を制したペントールと同じ配合で誕生した本馬を進めた経歴を持つ。4歳初戦で3勝クラスを卒業した後は、中山牝馬Sは3歳時、フラワーCで2着に食い込み、オーカス、秋華賞(ともに10着)へ駒を進めた。2着と惜敗を重ねたものの、一方で確かな地力もアピール。3000m級の長丁場に初めて挑んだこの日は血統にも裏打ちされた適性を示し、念願のタ